

1 自己評価

I	評価結果 (別紙参照)
II	分析・改善方策
①	<p><u>授業改善、授業が自分事となる学びの実現</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校改善アンケートで「授業や補習に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒は89%と目標(88%以上)を達成し、学習への意欲向上が見られた。一方で「授業はわかりやすい」との評価は79%(前年度80%)と微減しており、主体的・対話的な学びを深めつつ、理解度を高める授業設計が引き続き課題である。</li> <li>・教育DXの推進により、新任・転任教員の生成AI活用ガイドンス受講率は100%を達成した。全教科で生成AI活用授業が展開され、「瀬戸AIカフェ」等を通じた校内外への発信も活発に行われた。</li> <li>・学習実態調査では、全年次で家庭学習時間が増加傾向にあり、特に3年次は179.7分(前回115分)と大幅な伸びを見せ、受験に向けた集団としての意識が高まった。</li> </ul>
②	<p><u>生徒の自走、自立した社会の構成者となるためのより良くなるうとする力の育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸高祭は、熱中症対策として会場を変更し、新しい形で実施することができた。生徒会が主体となって計画・運営し、「熱中症・体調不良者ゼロ」を達成した。体育の部、文化の部を含め満足度は91%と極めて高くなった。</li> <li>・探究学習(ひたぶるタイム)では、選択や再挑戦を繰り返し、自分の好きを極める活動を通じて、社会課題への関心、理想の実現や社会参画意欲などを向上させている。さらにDXハイスクールとして本校が掲げるAI共創型教育の実践として、生成AIやデータサイエンスの活用により、生徒の探究活動が深化し、全国規模の外部コンテストで高い評価を得ることができた。</li> <li>・「AIリーダーズ」の活動では、企業視察やコンテストへの挑戦、中学生・地域向け体験会、校内教職員研修の実施など生徒が自らプロジェクトを動かす姿が見られた。</li> </ul>
③	<p><u>健全で良好な人間関係の構築、実践的なコミュニケーション能力の育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お互いを尊重し、感謝の気持ちを持つ」という質問に対し、3年次は99.3%、2年次も約9割が肯定的に回答しており、温かい集団づくりが進んでいる。</li> <li>・外部講師による講話や座談会、フィールドワーク、探究学習発表会などで年代や経験の異なる他者に触れる機会を多く設けており、生徒はそれぞれの場面での出会いにより大きく成長した。特に、生徒が中学校での探究活動の発表や助言を経験することは、身近なロールモデルとして地域の中学生と関わる機会となり、自己有感の向上に繋がった。</li> </ul>
④	<p><u>地域連携、地域貢献を行う力と社会変革の担い手としてイノベーションを起こし、エージェンシーを発揮する力の育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中の社会貢献活動には延べ112名が参加し、ウォーキング大会時には地域の清掃活動を実施するなど、地域社会の一員としての自覚を促した。</li> <li>・DXハイスクール2年目として、メタバース授業公開やハッカソン、保護者向けAI体験会、中学生・地域向けDX体験会等を実施し、先進的な取り組みがBSテレビ東京で全国放送されるなど、本校の魅力発信が大幅に強化された。また、AIリーダーズによる校内教職員研修も実現した。</li> <li>・ホームページを10年ぶりに全面リニューアルし、1日平均のアクセス数が1,325回(8月-12月)に急増するなど、情報発信の質と量が向上した。</li> </ul>

2 学校関係者評価委員会

西山 径 (岡山市立瀬戸中学校長)	金谷 文則 (本校同窓会長)
信宮 誠 (岡山市瀬戸公民館長)	山崎 桂司 (岡山市東区瀬戸支所長)
三浦 隆志 (ノートルダム清心女子大学講師)	佐々木 真貴子 (本校PTA会長)
山崎 和枝 (赤磐市総合政策部政策推進課長)	吉川 幸 (岡山大学教育推進機構准教授)

3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXの推進スピードと、AI議事録の導入や生徒のハイレベルなプレゼンテーション等、目に見える成果が出ていることを高く評価する。</li> <li>・推薦・総合型選抜での国公立大学合格者増(21名)は、探究活動の成果が進路実績に結びついた結果であり、素晴らしい。一方で、デジタル化が進むからこそ、スマホで黒板を撮るだけでなく「自ら書く」ことによる論理的思考力や文章力の育成を、普遍的な能力として守り続けてほしい。</li> <li>・学校説明会での保護者座談会は、不安解消に繋がる非常に良い取り組みである。今後も「瀬戸高ファン」を増やす発信を期待する。</li> </ul>
---

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXハイスクール事業3年目の継続とともに、「生成AIパイロット校」指定に向けた準備を進め、個別最適な学びと校務効率化をさらに深化させる。また、デジタル活用と並行し、委員からの指摘にもあった「書く力」「論理的思考力」の育成を重視した教育課程の編成・指導を強化する。</li> <li>・瀬戸高祭の会場変更に伴う移動手段や安全対策の課題を整理し、生徒がより安全かつ主体的に活動できる環境を整備する。あわせて、校舎の老朽化対策についても、経営計画の中で継続的に改善を訴え、安全・安心な学習環境の確保に努める。</li> <li>・コミュニティスクールとして、校内外の連携を一層強化し、社会に開かれた教育課程の実現を目指し、本校教育の質の向上とともに、地域社会の課題解決にも貢献していく。</li> </ul>
---